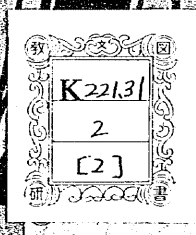


新制公民教科書語釋

下 卷



K221.31

2

[2]

凡 例

一、戸田貞三著『新制公民教科書』は、自學中心主義に立つ教科書で、どこまでも生徒諸君の自力で以てこの書を讀み、これが大綱を捉えることを原則としてゐるところに大きな特色がある。されば諸君は常に先生に頼らないで、獨力で研究を進めることに全力を盡くして欲しい。本書はそのために力めて文章を平明にするやうに留意はしたが、何分に範圍の廣い公民科のことであるから、或る程度の難語を使用することは止むを得ない。しかしその語の一つ／＼について辭典を繰くのは多くの時間を要する上に、なほ完全を期し難い場合がある。また字句の解釋に苦しむが如きは決して公民科の本旨ではない。そこで特にこの「語釋」を附録として、諸君の自力研究の便益を圖らうとするのである。諸君はこの意味をよく理解して十分にこれを活用し、以て本書の方針に副ふた研究を積み重ねんことを切望する。

二、語句の解釋はその語の含む意味を各方面に亘つて詳細に解釋するやうな辭書的の解き方をとらず、單にその箇所に於ける用語の意味を明かにすれば足りるといふ方針に従つた。

三、語句の意味が、教科書を精讀すれば自ら理解せられるものにあつては、殊更に詳解を附することを避けた。これらは本文についてよく研究されんことを希望する。

第一章	國民生活	一
第二章	職業	四
第三章	國民經濟	五
第四章	產業	七
第五章	流通	九
第六章	財政	一二
第七章	海外發展	一四
第八章	海外文化	一五
第九章	國防と國交	一七
第十章	我が國の使命	二〇
	終	

第一章 國民生活

文化 人間がその全生活を自分の成行きのままに放任せず、自然を征服・支配して以て理想を實現し、創造したもの。
建國 新たに國を興し、實現 事實の上にあらず、國民が萬世一系の皇室を戴き、心を一つにして國家を愛護する氣魄、奮興、盛んにする。促進 うながし進める。

第一節 我が國民生活と國民性

冠絶 もつともすぐれて、秀でてゐること。
獨自 もつものだけが特に、
力 我等が物質的資料を得て經濟的生活を營む。培養 草木をちかひ育てるやうに、物を發達させること。
現 明らかにあらはし示すこと。
外來文化 外國から入り來つた文化。支那、印度の文化や、近頃は歐米諸國の文、攝取・醇化 のとして組織的に整へること。
ひとすじ 一途に。大御心 御心。保全 つつこと。

國威 國家の威光、發揚 世にあらはす。勢よ 貢獻 世のため人のために力を盡くす。
福祉 幸福利益。秀麗 ひいでてうる。國土 くに。
君民和合 君と臣民とが、一つ心になつてやれる領域内。
國民的性格 或る國民一般に共通する性。危急存亡の秋 一國が存在するか亡びるかといふ危うい場合。卓越 他にゆきんでゐること。明淨 直 明るくて淨い。正 櫻 祓 こと。神道上の儀式。義 勇泰公の精神 大義のために私情を棄て、發現 あらはれて大和魂 日本國民固有の精神。忠君愛國・尚武・廉潔・自覺 自己の位置または價値を、白 本源 おほし。淡泊 欲のすく分かつからで意識すること。死を鴻毛の輕きに比す 生命は重んずべきものとして發達することを意味したもの。面目 世間に對する名譽。節義 みをを立て、義 自我 自分本位の考へ。同化 ちがひをつた性質のものを取入れて自分と同じ性質のものに變化させること。つまり自分の血とし肉とする。崇拜 あがめ拜す。旭日昇天の 心で取りいれること。

ひばり 鶯うぐいす 他からおびやかすこと。壯丁さうちょう はたらしき練りの男子。陸海軍の現役兵に遇する者。
 脅威きょうゐ 脅かすこと。しおどろかすこと。
 累年るゐねん 年をかき累ること。
 施設しせつ 設けること。うしろへま
 焦眉せうび 非常にさししぜまつた急務。
 施設しせつ 設けること。うしろへま
 筋骨薄弱者きんこつはくじやくしや 筋力薄弱者。筋骨が弱々しい體質の者。
 體格等位たいかくとうゐ 大勢の人々と比較した體格の等級。
 鍛鍊たんれん きたへれること。
 双肩くわんけん 全責任を負ふこと。中堅層ちゅうけんそう 社會活動の中心にあつて勤
 雙肩さうけん 全責任を負ふこと。中堅層ちゅうけんそう 社會活動の中心にあつて勤
 鋤鋤すくすくわ 農業を営むこと。の象徴。
 野菜やさい 食糧。
 消費地せうひち 生産した物を消費する土地。人

地は都市のやうに。

購

と云ふは、
潤ふ
の量氣がよくなること。景氣
その地方の經濟界が活
々たることをいふ。

第三節 社會改善

社會問題　社會に於ける強者と弱者との利害衝突とか、貧富のへたつきとか、
扶養者　たすけやしなふ者。自活する力
なき者に生活の道をあたへてやる。
労働者　資本家に勞力を提供し、その代償として賃金を受取る人。普通は筋肉労働者である。
資本家　營利の目的で資本を出す者。さきほどの小企業主を屈つて使役するもの。

もとて、穏和な手段を以て社會問題を解決しようとして施行する政策。

共產主義 きんさんしぎ 財産の私有と、自由競争に基づく

[illegible]

立場からこれに干渉し、統一すること。生産物を加へて我等の生活に有用な物に作り出す働

せいじやう　せいさん　ぶつ事の根　じんてき　ふみ

主幹　こころだて　よくん

るこ
と。
偏見
かたよつ
た意見
断案
だんあん
結論
けつろん
は
闘争
どうそう
ひ。
協調
けいてう
不備
ふび

ちん事件を落着
争議
労働者と資本家との間の
平和的解決
實地に施行

國家または地方團體がその經費を支辨するた
め、國民から税金を徴收する制度。
税金を課すことにより、果ては、週節の
負擔能力を程よくととのへる。

三

家から報酬を支拂ふこと。即ち、各人がその所得を手に入れること。

第一節 我が國

執着しやくちやく 心がたたく物にとりつく。深く思ひこんで忘れぬ。

纏まとふ
身みに著つる。
經濟生活

代	用	物資	物資
社會が貨幣交換の時代より進んで、すべての物の生産が商品として通用するに至つた時代。	欲望を満たし得る能力。裕か 豊富。 貨幣經濟の時	つかひみち。財貨の吾人の 裕か 豊富。 貨幣經濟の時	材料 運搬 配給 生産者から消費者に至る物の流動作用。至効

衣食住のやうな物質によつて、生存上の欲望を満たすための生活。

未開時代みかいたい 人智のまだ開けなあきい蒙昧な時代。

單位たんゐ 物事の比較計算の基本となるもの。

經濟活動けいぎくどう 經濟生活を営むためにするさま。

みぶさうおうせいくわつ
 身分相應の生活
 各の身分にふさはしい生活。身分に應じた生活。
 ちようく
 貯蓄
 財貨を將來のため
 きがひせいさん
 機械生産
 最も道理に合つたやうに節途の立つたやり方をする。こと。

自給自足 自分(じぶん)の生活(しやうか)に必要な物品(ぶつひん)はすつかり自分の家(いへ)で
 産出(さんしゅつ)してこれを用(もち)ひ、他(た)からの支給(しきじやう)を仰(おほ)がない
 こと。
 國情(こくじやう) 國(くに)のありさま。
 世界經濟(せかいけいぎ) 國際間(こくさいかん)の交通機關(かうたうくわん)の發達(はつたつ)
 の結果(けつこ)經濟(けいぎ)の範圍(はんい)も廣(ひろ)いこと。

機械を使用して營む生産。手工生産に對したこと。

過剰生産　くわうぜいさん　生産が需要を超過するほど、あまり多くですぎ

閉塞　へんそく　とちふさ　有形の財貨。生活

販路　はんろ　貨物を賣りさぐく方面。

たこ　とちふさ　有形の財貨。生活

くなつて、商品の生産も世界市場を目標として行はれて、世界経済が世界の舞踏の上に立つに至つた状態。すなかり。鎖の環。法制。國家が制定したさまざまな法令。針路。進むべき路。連鎖。

のために必要物資。
 停滯 停滞。
 恐慌 経済界に於て産業が破産者が續出して人心の逼迫し、金融の暴落。
 物價 物價の暴落。

所有權（しゅいうけん） 個人が物を完全に所有することのできる權利。即ち法律の範圍内に於て自由に物の使用・收益・處分または占有をなし得る權利。

關稅（くわんぜい） 國外から輸入する品物に對して賦課する租稅。

障壁（しょうへき） 自由に外からはいられ

不安なる混
亂状態。
埋藏
種々の寶物が地中に
入つてあるさま。
含有
ふくまれて
あること。
收
蓄積
營利のために使用
せられる資本。
資金
本文の説明
を見よ。
漸減の法則
くわんげん
はふそく

した壁に
 したやうに
 と。
 國家的統制
 國家が法令を以て統制を加へること。
 阻害
 さまざまの害を及ぼすこと。

協調の精神 けいどうのせいしん	たくはへ積むこと。 素質 そしちつ	本来持つて生れた性質。 考慮 かうりゆ	おもんばかり。 労資 らうし
資本家と労働者が相互の人格を尊重し、互に自 制・協力して産業の發達と、文化の進歩とを期さ			

うといふ
青申。

經營
を企業家

管理
しまつて行くこと。
利子
金信

報酬 ほうしゆ こゝでは自分のために他人のな
 した勤勞に對して支拂ふ金。
 共同企業 きようごうきぎふ 組合・會社
 多くの人々が共同 きようどん などの如く
 して行ふ企業。
 商法 しやうぽう 無
 係を規定した法律。
 無限責任 むげんせきにん 社
 會

に對する報酬として、債権者が債権者に支拂ふ報酬。

店舗 てんぽ **物設備** みせのたてもの

地代 ちだい **他人の土地を借りたものが地主に拂ふ報酬。**

借地 しゃくち

の債務につき、一定の資本金總額をあげてこれが辨済にあて、なほ完済にならぬ時、各目所有の財産を以て辨済の資にあてること。

有限責任 ゆうげんせきにん 一定の財産を限つて、債務の辨済にあてるだけの責任。

株式 かぶしき 株式會社の資本の單位。即ち株

ち地代の
料こと。
と。時勢の
進運
騰貴
のあが
るこ
代價
品物のね
供給
に應じて財物を提供すること。要求

株式会社の資本は一定の株数に分割して株式に分たれ、その一株の金額を一定する。これを株式といふ。

株主 かぶぬし 株式会社の社員のこと。株主となるには少くとも一箇の株式を受けなければならない。その権利は株券を以て表はす。

所有株 しゅゆうかぶ

歩合おあひ 割合。

生産要素せいさんようそ 生産のために必要缺くことのできぬもの。即ち土地、資本、労働のこと。

第五節 經濟と道徳

或る人の所持してある株券。
價格協定 同種の業者が、商品をいくらに賣るかといふ値段を相談して決めること。
販賣條件 同業者同士が、商品の販賣につき或は販路を協定したり、歩引きを決めたりするやうなこと。

度外に置く さうわいにおき 心にかけぬこと。
 先哲 せんてつ 昔の賢者。
 衣食足つて禮節 いしょくたつてれいせつ 奢侈 しやし 生活の道が豊かであれば、人は禮儀を知るやうになる。
 伸張 しんちやう のべはること。

さまざまな販賣についての條件を定めて競争を避けること。
 とめて共同で販賣すること。
手工業者 じゆうこうげしや 手先でするやうな小規模の工業に従事する人。
自動的 じどうてき

くらし方がお
ごること。

道徳的經濟生活

よく道徳に合つた經
濟生活のやり方。

口ぐち 賣買取引の多額なこと。
精神せいしん 人にばかり頼らないで、自分達のことは自分達ですといふ精神。
對抗たいかう はり合ふこと。
大おほ

明治維新 徳川將軍の大政奉還により、紀元二五二八年を中心として、政治上・社會上に行はれた大變革。 翁

然ぜん一いつつに集あつ合あふさま

助成 じこせい 助けて事をな
しとげること。
重要物資 じゅうようぶつし 重要な生
活必需の

七

1120

源泉げんせん とみなも
生業せいげふ 生活せいふに必要ひつなわ
大業たいげふ 大事だいじな
御軫ごしん

念 てん 天子の御心を痛め
こと。させ給ふこと。
勤儉 きんけん 仕事に勤勉でよく節約をまも
つてつゝ、ましくすること。
あき人 あきひと 商人。
飛躍的 ていつてき 地位が俄かに一
段と進むこと。
壓倒 おふた 断然すぐれて他
にまさること。
先進國 せんしんこく 國一
工夫 こうふ 心巧。
官民協力 くわんみんりやくりき 官途にある人は、大勢の
臣に達も力を合はして。
獎勵 かうり 獎勵する。
相關聯 かかんれん 互にかゝはりつ
加工 かこう 人工を加へること。人の手で自然物に對し
て一層効用の増すやうに働かせること。
廣汎 くわんぱん 範圍の廣
いこと。
調節 てぎよう 程よく適度にのへる。
有機的的關係 ゆうきてきのかんけい 生物のからだの如く、多くの部分があつて
一箇の物を作り、その各部分の間に緊密な統一
がとれてゐるといふやうに、部
分と全體との必然的關係。
緊要 きんやう 最も大切
なこと。
豐凶 ほうきゆう 出來物の
多き少き。

潤澤 じかんなく 澤山 ゆたか 豊葦原瑞穂國 みやあしはらのみづほのくに 我が日本帝國の美稱。「豊」は
 潤澤 じかんなく 澤山 ゆたか 豊葦原瑞穂國 みやあしはらのみづほのくに 我が日本帝國の美稱。「豊」は
 潤澤 じかんなく 澤山 ゆたか 豊葦原瑞穂國 みやあしはらのみづほのくに 我が日本帝國の美稱。「豊」は

勢力の行は **痛嘆** ひとく悲しみ
 相手の清岸・港灣・通路など
 との交通を遮断すること
 不撓不屈 たふまじく
 不屈 たふまじく
 封鎖 ふうさ
 封じとさすこと。兵力
 その他の實力を以て、心
 のつかぬに困難に屈せぬ

金銭または衣食住などの貨物。經濟上では、**流通**財貨が

見^みえ 人の心をなほすに、遠くをのぞくこと。 亦、遠く。 世間にもなほすに、遠くをのぞくこと。

なめらかに賣買すること。商人が農業や工業などになめらかに物を過不足のない、供給するように過度に市場へ出して、人々の便利を生産した物を過不足のない、やうに過度に市場へ出して、人々の便利をはかること。

信用^{しんよう} 他人を確實なりと信すること。將來に於て必ず義務を履行するであらうと信認すること。

（天然肥料）
に對して）
工場工業
工場に於て多數の労働者を使用し、機械を据ゑつけてする大規模の工業のやり方。

森林となすこと。植林　林木を仕立てること。山地に苗木を植ゑつて松・楡・杉・杉類の林を成長せしむること。特にかうして松・楡・杉類の林を仕立てることを、輕減（けいげん）と云ふ。減輕（けいじやう）すること。重工業（じゅうぎよう）　容積の割合に、重量の大きい物資を製造する工業。即ち船舶業・造船業・車輛の製造業。模倣（もばう）　まねなら。追隨（ずいずい）　人のあとから進むこと。敵に勝つて服従（ふくぜい）させること。朝野（あさの）　上に立つて國を治める人も、下の方（かた）はかりのこと。方針（ほうしん）　苦心（くしん）。促進（そじん）　うながしすること。事物（じぶつ）のやり方。腐心（ふしん）　苦心（くしん）。策（さく）　計略（けいりやく）。熟練工（じゅくれんこう）　細かな仕事に熟練してゐる職工。普通機械工業（ふつぐわがくきうぎよう）　重工業などに於いて。待遇（たいぐう）　かひ。報酬（ほうじゆ）　評判。

第一節 貨幣と物價

[illegible][illegible]

業上の取引のため他の商人まで、**保証**、物事の確實にしようとするは銀行にあっては、提出した手形、**引き受け**、概念、得た觀念、例へば一般の物の價が高くなつた時に「**物價は騰貴した**」とそれらの**騰る**、**平準**、平均の目共通點をひき出したが如し、**相平均**、互に不同の**變動**、かばりうつく**流動**的、全體、**下落**、物價のさが、**昇騰**、物價のすつたり、低くなつ、**通貨膨脹**、通貨の數量が激増してだぶつ、**通貨收縮**、通貨の數量が減少して引きし、**趨勢**、へだたき、或る方向逼迫して貨幣價値が上り、物價が激落する。**デフレーション**の、**物價指數**、一般物價の上下の有様を一見し、**均衡**、彼とつと平均を保つ、**均衡**、な、**緩漫**、ゆる

百貨店 百貨の商品を各部門に分けて陳列する大規模の総合小賣店
一經發下に販賣する大規模の綜合小賣店 同一般發下に販賣する大規模の綜合小賣店
取引所 米穀・株式・絲綿などの大量取引をする市場
公定相場 取引所で、買賣した相場のない商品の一般市價の平均値のこと

標準とな
るもの。
盛衰。
商機。
商工會議所
する商工業の救済發達を圖ることを目的と
す。商工業の團體で公法人である。

擔保 (たんぽ) 債權を保全するため債權者に提供された保證。例へば借金をなすに相當の土地の如きものを擔保して提供するが如く。
 道義心 (だうぎしん) 道德上の條理を守る心。道德心。
 信託 (しんたく) 借じてうたがはぬこと。
 口口口 (くくく) 破
 綻 (たん) や崩れはたなること。商店・會社などが、行きつまつて成り立たなくなることを。銀行が支拂停止などを行つこと。
 約束 (やくそく) 証文をとらずたゞ口頭で成り立てる約束。
 裏書 (うらがひ) 手形・證券などを他人に譲渡したことを證するため。
 一定 (いどう) 一定の方式に従つて、その裏面にその旨を記すこと。
 國庫金 (こくぐ) 國家の金。「國庫」は、國家の會計の本源。國家の財源を統一して、金銭の收入と支出。
 出納 (しゅつなつ) 金銭の收入と支出。
 外國爲替 (がいこくゑんがひ) 外國に、金貨を賣つて、外國爲替券を發行すること。
 外國爲替券 (がいこくゑんがひせん) 外國に、金貨を賣つて、外國爲替券を發行すること。
 附 (つ) 附の危險その他の不便を避けるために、外國に於ける貸借を完了する特殊な方法。
 不動產 (ふどうさん) 土地及び、土地に定着した物以外の一切の財產。
 土地・山 (ちど・さん) 林・家屋など。
 不動産 (ふどうさん) 土地及び、土地に定着した物以外の一切の財產。
 長期貸付 (ちがくかひ) 十年とか、二十年とかいふ風に、長い期間に亘つて金を貸付すること。
 動產 (どうさん) 土地や、土地に定着した物以外の一切の財產。
 金銭 (きんせん) 金銭、金銭證券など。
 預金 (よきん) 金銭を利殖するの方便として、金銭を銀行またはその他の金融機關に預けること。預金者はこれに對して規定の利子を受取る。
 手 (て)

第一節 我が國の財政

財政（さいせい） 國家または公共團體がその生存發達の目的を達するために、
 收入を獲て、これを以て經費を支出する國家經濟の営み。
安寧（あんねい） 安らかに、
 國家及び人民の安寧幸福に對する危害を
 警察 除くために、直接に人民の自由を制限す
 權の行爲。
裁判（さいはん） 訴訟を整理し裁斷して、法
 規の適用を定めること。
土木（どぼく） 家屋・堤
 防・道路。
鐵道（てつどう） 鐵軌を敷設し、
 鐵道などすべてを材料、燃料、
 支拂などを使用して事業。
**財の發生する
みなもと** 支辨 金錢の支出。
管理（かんり） 收入したものをよくその目的にかなふ
 やうに會計の仕方を十分にすること。
家事情濟（けじけい） 一家の經濟を最もよくその本旨に
 出資する事務。 用をみだすこと。
使用（しよ） 收入をばよ
 くその本旨

第二節 豫算と決算

緩急	収入・支出の 繰上・繰下	歳入	國家または地方團體が所要の經費に充てたるた め、豫算に計上し、國庫または地方團體の金
支障	きびしくしたり。 ゆなやかにしたり。	豫算	國家または地方團體の

第六章 財 政

さしひ 費目 費用を支出する名目。 利子 貸した金に對して課する税金。 外貨債特別税 外國の貨幣額であらばその外貨債を所有する人に対する税金。	さいふ 費用と支出する名目。 資産 積した財。所得を蓄へたもの。 弾力性 物價が需要と供給の變動に應じて變化する性質。	のびちやみの自由にてできる性質。即ち課税に於て必要の少い時は小額に取立てるが、一朝大いに必要が起れば、それに應じて多額の税金を取立てることができるといふこと。 地租 地所有者に課税するべき土産を生じましては生ずるべき税金。 營業收益税 營業的收益を本にしてこれに賦課する税金。 相續税 財産の相続の開きで課税される税金。 轉嫁 賣業者は酒税を國家に納付するけれども、其の税額はむづかしく買手が酒の價格の中に繰り込むので、つまりは酒を飲む人の懐から納付することになるやうなもの。 複稅制度 二種以上の租税で組織せられる課税制度。 法人 肉體をもつ人間とは別に人の團體または物の集合會社として認められ、資本利子税、資を得た者に対する税金。 有價証券移轉税 公債・株券などの有價證券の買賣の場合に、その買主と賣主との間に對して課する税金。 外貨債特別税 外國の貨幣額であらばその外貨債を所有する人に対する税金。
---	---	---

した。取引所に於ける定期取引の買貨各約定高に對して規定の割合を以て課する税
 所税
 登録税
 立憲精神
 取引税
 立憲精神

政治に基づく
國民の精神。翼賛 天皇をたすけ 報償のふくこと。隠蔽
おほひかく 脱税 租税を納むべき義務があるのに、その義務
すこぼ 延 税を逃れようとして不正の申告をすること。延
滞 ぼること。没却 無視する

第四節 官 業

民營 民間の者の手によつ 陸軍造兵廠 陸軍兵器の考案・設
軍需品の製造 各軍港及び廣島縣に設置し、兵器・火藥・
海軍工廠 器・機關の製造・修理及び艦裝並に兵
兵器の購買・實驗 内閣總理大臣の直轄で、官制法令全
などを掌る所。印刷局 書・職員録などの編輯・印刷並に發
賣、及び印紙・郵便切手・諸證券の製造及 郵便年金 政府が契
ひこれに要する用紙の製造などを掌る所。約者から
掛込を受け、その指定した者に對し、生計中毎年度に、
一定の金額即ち年金を支拂ふ制度で、郵便局で取扱ふ。
生命保險 手續に依り貸む所の簡易 國有林 國家の所有する
種の一 森林。國有財産

第五節 公 債

融通 金のない者が、有る者からささ 行政整理 行政各部
廢合し、吏員を淘汰したりし、 増税 した租税の率を高く
行政上の經費を節約すること。また多くの税額を

第七章 海外發展

第一節 我が國の貿易

水利 水上運送 國際收支 一國が外國との經濟關係に於て、
の便利 輸入超過 輸出超過 輸出超過 輸入超過 輸入超過
額に超過すること。鎖國 外國との通商交通 門戸を開く 外國人
國の領土を開放して、通 受取超過 外國から入つて来る金高
商交通を始めること。 收支勘定 収入・支出 投資 資本を
りだけの金額のこと。

おろす 外國で募集 對外事業 日本人が外國の事業
こと。 外債 した公債。 債務 返すべき義務。 決濟 貸借關係につき決算をして、
助長 たすけてゐる。 通商關係 國と國との間に交通
完全 缺點なく、すぐ 滿幅の努力 りの努力、
れてよいもの。

第二節 移民民と拓殖

生活必需品 日常生活に必要缺くべから 稀薄 密度の薄
す。 總督府 植民地の總督が政務を統轄する官。 海岸線
海と陸との接した處、即 膠着 けばりつて動 尺寸の地
備かの 離散 すること。 活路 のがれてみち。 生 權益
擁護 權利と利益とが他から侵さ 王道樂土 王道精神を以て立
土地。 應援 熱心に希望 支援 援助
の仁義を本とする政道。 熱望 すること。 移住 故郷
産業に従事すること。 宣揚 あげあらは 海外渡航者 海
に渡る者。 緩和 ゆるやかに和 退嬰 しりこみす 怯懦 病弱

第八章 國民文化

攝取 葉巻物を體內に吸ひ取るやうに、 醇化 除き去り、よ
外國の文化をとり入れること。 國民文化 一國の國民性の理想
統一的に組織すること。

理學・生物學・化學・天文學・地文學・動物學・植物學・
 礦物學・心理學などの總稱。
 物質文化 ぶつしつぶんくわ
 物質方面の文化

文化とする
超國家的

風雨・雷　　地異　　海上に起る異變。地震。海嘯・洪水・噴火の類。
 全體を一樣に考へる見方。個人主義　個人の權威と自由とを重んじ、自己を主とする。排除　おしのけの義。おしのけの義。おのづから。宏大　ひろびろとしたこと。大きく。
 第二節　學藝宗教教育
 普及　あまれくゆき　國學　我が國の國史・國文・國語などを研究する學。
 天皇の御手許金　　促進　うながしする。巧妙　たくみな作品。すぐれた。傑作　すぐれた。粹　きまはめて緻密に。日本趣味　日本に趣向を有する。天眞　まじりけのないこと。純眞　まじりけのないこと。天真　天に起る變動。榮枯盛衰　榮ふこと。衰ふこと。思ふ。

普及きふき わたるとこと
天皇の御
手許金
づいて
ることで
むき
的なおも
盛観さかん 盛大なみ
ものを
いふ
流麗りゅうれい 詩文の語句などのすらすら
きよらかに
よこされ
地異ちい 純眞じゆんしん まじりけのないこと
風雨・雷
鳴など
地異
海嘯・洪水・噴火の類
榮枯盛衰えいこせいすい 榮えた
と思ふた
天變てんぺん 天空に起
る變動
國學こくがく 我が國の國史・國文・國
語などを研究する學
名匠めいしやう 工人、すぐれた
精緻せいせい きはめて緻
密な
粹すい たもの
作品さくひん すぐれた
作品
傳統でんとう 過去の經驗・様式などが後世に系統を垂
れ、後人がこれを踏襲して後世に生命を垂
てしめるはしいこと
趣致すいし おもしろ
不純ふじゆん 純
巧妙くわうめう なくみな
なぐみ
促進そくしん めるがし
うながし
國學
御内帑金ごないたうきん 入つ
た物
日本趣味にっぽんきうみ 日本に
合つて
清新せいしん 清らかに
いふこと
新

祖國愛 愛するの心を
支那 ふうな
風濤 なげや
究ゝ 模倣 ふれなり
理性を没却して無茶苦 立證 證明を立てること。
來に行動する。

総合的 個々別々のものを一つに
難關 困難な
研鑽 物事の道理をき
十分會得 十分會得して自分の
盲目的 はめらへるること。

漢土

充實 じゅうじつ すきまなくみ
 整調 せいてい といのへて正し
 車 くるま の兩輪 りやうりん の關 かん
 係 けい 車 くるま の車輪 くるりん の如 ごと く、密 み
 八絃 はつげん 一宇 いつう の大理想 だいいしやう
 不 ふ 相 さう 和 わ なるに あ る言 ごん 葉 えふ、八絃 はつげん は八方 はつぱう の兩々 りやうりやう の義 ぎ
 神 しん 武 ぶ 天皇 てんわう 攝 しやく 皇 わう 親 しん 即 じやく 位 ゐ
 宇 う は家 け のこと、不 ふ 當 たう
 人 にん 道 だう ふふ ふふ 正 せい 道 だう
 親 しん 善 ぜん はつ はつ て て 行 かう くこと。

+

かこ。轉じて物の本旨。本來の趣旨。政治的教養。政治上的の慰安。め。

第三節 國民文化の發展

祖國愛 愛する心。綜合的 個々別々のものを一つに漢土支那。風濤 風波。難關 困難。研鑽 事物の道理をきと。研 磨 せられなら體得 十分會得して自分の盲目的 理性を模刻して無茶苦茶に行動すること。

第九章 國防と國交

充實 すぎまなくみ 整備 ことのへて正し 車 車輪の如く、密 八紘一宇の大理想 世界を一つに係 接不可離の關係 八紘一宇の大理想 して包容すること。不平の語にある言葉。八紘は八方の隅々の義。宇は家のこと。不當の侵害。外國が我が國に正義に反し。人道 人としてふべき正道。暴 無暴なふ 排擠 おしのけておとし 親善 親しんで仲よく交るまひ。

第一節 國防と兵役

る。　儀表　模範。
條章　法律の常備兵額　平時に備へ置ける兵力の額。
用兵　機密の任務をすること。兵器や直隸　屬するに天皇に隷属すること。参畫　計畫にあつて軍務を輔弼申し上げること。補弼とは、天皇が大權を行使されるに當り、萬一の過謬のないやうその聰明を開き、輔佐し奉ること。元帥府　天皇の軍事上にある最高顧問府。諮問機關　天皇が國防上の重要事に對して御相談遊ばされるため近衛師團　宮城近衛に任じ當る大將以下で組織せらるるものにとどま要港部　各要港に置き、所管區域の警備・防禦などを掌る所。海兵國　各軍鎮府に屬して各軍港に設けられ、補給員を統轄する所。防備隊　各軍港及び軍港の守衛を掌り、砲臺を置き、海上防禦のこゝを掌る軍隊。

第二節　國防と國力

裝備　各種兵器など軍用の諸設備をいふ。動員　軍隊の平時編制を戰時編制に移すこと。龐大　甚だ大きい。按排　程よく並べらるる多岐　多方面な確保　確實に保持すること。經濟機構　經濟上の組織。戰時財源　戦時に於ける財政的な財源。

第三節 國際協力

[illegible]

圈を擴張することを
目的とする主義。

政變

[illegible]

覇權はけんの覇者として

の肩をならべることを
威する勢力
虎視眈々 他國を併呑しようとしづかに形勢を觀望し、そのさまがあたりを威する勢力
安定勢力 安定せしむるために必要な勢力

第二節 我が國の使命

日本國民族の精華で、日本民族は、皆天祖の末族、支裔である。而して皇室は天祖の直系で、天皇は日本民族の家長であらせられる。故に忠は孝であり、孝は忠に對するものから従つて忠といふので、その根本は全く同一であるといふこと。

征服 敵國を征伐して領地を略奪すること。

出孝一本 日本民族は、皆天祖の末族、支裔である。而して皇室は天祖の直系で、天皇は日本民族の家長であらせられる。故に忠は孝であり、孝は忠に對するものから従つて忠といふので、その根本は全く同一であるといふこと。

第二節 我が國の使命

する仕事
 程度
 熱意
 熱心
 職責
 職務上の
 責任
 銘記
 心にきざみ
 つけて忘れ
 ないこ
 すん
 推進
 おしす
 める。

4221.31-2-[2]

新制公民科教科書語釋

下 卷

發行所 東京市牛込區
辨天町百七十四番地
中文館書店
電話三三三五番
電報掛號一〇三二番
郵便掛號三八四二番

昭和十二年十月五日印刷
昭和十二年十月十日發行

所 有	著 權 作
--------	-------------

著者 中文館編輯部
發行者 中村時之助
印刷者 松岡虎王
印刷所 三鐘印刷株式會社
東京市神田區錦町三十一番地

品 賣 非

